

東京電機大学校友会 千葉県支部だより

第4号

平成12年12月25日

事務局
千葉市稲毛区緑町
1-5-8
高率電設(株)内
TEL 043-242-1539

はじめに

東京電機大学校友会千葉県支部

支部長 小川 重二

校友会千葉県支部の皆様には、経済状況厳しい中、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は、校友会の活躍に御理解御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私は、この度支部会のご推薦を頂き、支部長という大役をお引き受けることになりました。何分浅学非才でございますので校友会本部、諸先輩そして役員並びに会員の皆様の御協力を頂き努めて参りたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

関 前支部長はじめ役員の方々のご努力により千葉県支部も年々発展を遂げております。ご存じの通りでございます。今後は、先輩諸氏の築かれたこの路線をさらに推進するために、皆様の御協力を頂いて千葉県支部のさらなる発展を図るために全力を尽くす所存でございますので、宜しくお願い申し上げます。

さて、千葉県支部には十二年四月現在八千九百四名(住所判明者)の会員がおりますが、さらに会員の増員をしたいと思っております。

さらに、支部の事業に一人でも多く参加

していただき会員相互の親睦を深めると共に他支部の情報も取り入れ、情報化の最先端の本学園卒業生として更なる活性化に会員皆様の努力をお願いいたします所存です。

前 関支部長体制の主な活性化事業と致しまして、一、千葉ニュータウンキャンパスにおきまして、世界最高レベルの生体磁気計測システムセンサー製作設備を備えた超高性能磁気シールドルームの見学。

二、土肥先生による二年二回のパソコン教室、又、先生には支部総会時に「インターネットの現況と将来」という講演をしていただきました。三、平成十二年七月には脇先生により「IT産業革命」のご講演を福田ホールにおきまして講演をしていただき、近隣住民の皆様と共に勉強させていただきました。四、ニュータウン内の地域エネルギーセンターの見学をし学生気分になり若返ったような気分にもさせていただきました。

さしては、「支部だより」の刊行をして参りました。その間、皆様への案内状、支部だよりの送付に掛かる通信費の問題において学園との折衝の結果援助金を頂けることになり皆様への連絡もより一層密にすることが出来るようになってまいりました。

校友会にも大きな変化の波が押し寄せ

ております。千葉県支部会員におかれましては、従来にも増して暖かいご理解と御協力をお願い申し上げます次第です。

支部長二期を省りみて

関 泰雄

支部活性化を積極的に進めて貰いたい、

との竹内元校友会理事長からの強い要請があり、役員の皆様からの推挙もあって支部長に就任したのが平成八年六月で、その折り今後の支部長の任期は二期四年間とする了解のもとでお引受けした次第であります。さて千葉県支部は東京・神奈川・埼玉に次ぐ大所帯で八千五百人余りの卒業生を抱えていることを始めて知った訳で又千葉キャンパスが印西町にひかえている関係上もあって、支部の体面にかけても本部の要望に答えなければと、役員一同頑張つて参りました。結果的には本部のご期待通りに、又会員の皆様に満足していただける様な事が出来ないうで任期が終つてしまつたというのが実情であります。その原因を私なりに考えてみますと、先ず、今だかつてない不況のためには役員が仕事に追われ思つ様な時間がとれない。支部活動のための予算が少ない。従つて事業活動が思う様に進まない、事業計画をたてても多忙のため会員があまり関心を持ってくれない。集まらないという状況、そこで試考錯誤の結果として役員を増員し、学校別・卒業年度学部学科別に人選して現在の支部役員が選出された訳であります。残念ながらその後、

於ても予想したよりも出席者の拡大がみ

られない状態でありました。今の支部会

員のメンバーは、古い昔支部がスタートした当初よりの者が多く会員のほとんどが電気関係者であるため違和感の様なものがあるのではないかとこの意見もあり学部学科ごとに部会を作つたらどうだろうかという役員会の意見に従い平成十一年九月機械学科卒業生千二百八十八名、建築建設学科卒業生五百四十一名に対し部会設立に対するアンケート調査を実施いたしました。期待に反し殆んど回答が得られなかった。回答を寄せた者はメリツトがないという意見が多く半ば落胆気味になりましたが、お陰様で年一回発行する支部だよりだけは役員・会員のご協力で非常に好評で計画通りの現在も実行されている。ご承知の様に今期から小川支部長を始めとしたベテラン役員によつて支部が運営される事となり支部会費も無徴収と思ひ切つた方針のもとに活動を始める事になりましたが、

校友会が電機大学、学園の卒業生としての意識とプライドを持ち日本の将来を支えてゆく技術者として世界に貢献できる活動の源泉となる様な事業を考え、特に若い人の関心を高める対策例へば「日本技術立国を推進する千葉の会竹内圭司」なるものを支部の中に設け、学園・校友会が支援し、状況によつてはその会が中心となつて全国的支部に展開し、講演会、研修会、見学会、産管学交流会等を開催できる様な事になれば又違つてくるのではないかと思考されますが、いずれにしても魅力ある事業の検討が今後早急に望まれる訳で、学園・校友会と一体となつたなかでの研究、企画、立案が求められます。

あくまでもこれは都市部で多数の会員、

卒業生をかかえたなかでのスタートとしての考え方であります。ちなみに評議員で千葉県在住者は八十七名です。一考を本部に望みます。

■新学部紹介

東京電機大学情報環境学部

開設準備室副室長 中村 尚五

平成十三年四月に「情報環境学部」が東京電機大学の千葉ニュータウンキャンパスに開設される予定です。この学部は二学科構成(情報環境工学科、情報環境デザイン学科)の小規模な学部です。

ネットワークコンピュータインテリジェントハウジング等、様々な分野で情報通信技術の発達は夢に描いていたさまざまなことを現実のものにしてあります。情報環境学部では主として上記のような分野に関連する情報ネットワークの基礎技術とそれを社会の様々な分野へ応用する、人に優しいインタフェースを追求する日本初の学部です。

次に、それらをどのように教育しようとしているのかを紹介します。情報環境学部が日本初の学部であることは前述しましたが、実はその教育方法も日本初のも多くの試みを目指しております。情報環境学部には学年制がありません。つまり一年生、二年生...という概念はありません。最近、高等学校から大学への進学者はさまざまなバックグラウンドをもち、その基礎学力も多様に変化しております。こ

のような学生達に系統だった学習を通して一流の情報関連技術者を育成するためには、個々の学生に合ったペースで学習するシステムが必要と考えております。そのような観点から、現在ほとんどすべての大学で採用している学年制は極めてやりにくいシステムです。ある学生は一年目に基礎学力を高めるために少数の科目だけに専念したいと考え、別の学生は、基礎学力には自信があるため、早い時期から専門科目に取り組みたいと考えるかもしれません。このような教育システムを考えると、一年間で決まった額を支払う学費制度も馴染みません。そこで情報環境学部では授業料の単位従量制という、つまり履修する科目に応じた授業料を支払う制度を取り入れました。この他にも学生個々の目標や興味を大切にすることを工夫が組み込まれております。例えば、数学の講義の中に実験が組み込まれております。単に数学を純粋数学として学ぶのではなく、数学がどのように現実の世界に活用され、それを通して数学の重要性などを理解できるような教材を開発しております。また、国際性を涵養するため、

■千葉県支部の皆さんこんにちは。

東京電機大学

校友会理事長 横田 等

語学は英語に特化し、TOEICをベースに使える英語を目指します。一学期でTOEICのスコアを五十点向上させることを目標に特別な英語カリキュラムを考えております。

以上述べましたように、情報環境学部は、教育内容、教育方法で日本初のもの多くの試みを持っております。この学部の成功は技術立国としての日本に重要な意味を持つと信じております。校友の皆様の大変なご支援を心より期待しております。

先の県支部総会におきまして、永年支部長をお務めになられた関泰雄様が退任され、新たに小川重二様が支部長に選任されました。関前支部長様は会勢拡大を図るため、支部会則の制定、役員中学校則及び階層別の選任や、「支部だより」の発行等、県支部の発展に多大な貢献をされました。誠にご苦労様でした。続いて小川様が支部長となられました。全国有数の卒業生の居られる大きな支部です。地域的、交通面等より会員相互の交流連携のとりにくい面も多々あるかと思われ、支部発展の為、一層の御活躍、ご奮闘賜りますようお願い申し上げます。何うところによりますと、会勢の拡大及び活性化の為に「支部だより」

日頃は校友会の活動及び支部活動にご協力、ご支援いただき誠にありがとうございます。私はこの度はからずも伝統ある東京電機大学校友会の理事長の大役を仰せつかりました。大変光栄なことであると共に、その責任の重大さを痛感しておりますが、校友会の発展の為に微力ではありますが、全力を尽くす所存でありますので、千葉県支部の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

この度は「千葉県支部だより四号」を発行されることになりましたことをお祝い申し上げます。この「支部だより」が本部より発行される工学情報と相まって、千葉県支部会員の相互連携、親睦に、また支部の活性化に役立ちますものと思っております。

先の県支部総会におきまして、永年支部長をお務めになられた関泰雄様が退任され、新たに小川重二様が支部長に選任されました。関前支部長様は会勢拡大を図るため、支部会則の制定、役員中学校則及び階層別の選任や、「支部だより」の発行等、県支部の発展に多大な貢献をされました。誠にご苦労様でした。続いて小川様が支部長となられました。全国有数の卒業生の居られる大きな支部です。地域的、交通面等より会員相互の交流連携のとりにくい面も多々あるかと思われ、支部発展の為、一層の御活躍、ご奮闘賜りますようお願い申し上げます。何うところによりますと、会勢の拡大及び活性化の為に「支部だより」

モデン工業株式会社

代表取締役 関 泰雄
(昭和26年卒)

モデン工業株式会社

監査役 渡 辺 武 男
(昭和26年卒)

モデン工業株式会社

理事 秋 山 昭七郎
(昭和30年卒)

株式会社杉沢建設

代表取締役 杉 沢 順 一
(昭和27年卒)

株式会社増田電気工業所

取締役会長 増 田 隆 一
(昭和10年卒)

千葉システック株式会社

取締役営業部長 田 中 豊 明
(昭和34年卒)

民 主 党 千 葉

第3区支部長 竹 内 圭 司
(平成4年卒)

株式会社キデン

常務取締役 嶋 田 建 弘
(昭和40年卒)

株式会社電機産業

代表取締役 山 本 登
(昭和21年卒)

の充実、研修会及び見学会の開催、建策部の立ち上げの検討等、新たな企画も進めておられ、時宜を得たものと感心いたしている次第です。尚、通常会員数の増員について本部の事業計画にも取り上げておりますので、千葉県支部の会員の皆様におかれては、未加入の方への勧誘を積極的に進めて下さるようお願い致します。

さて、永く続いた不況も漸く底を打ち、緩やかながら景気は回復していると言われておりますが、雇用問題を含め、先行きの不安から個人消費回復の足どりも心もとなく、それに政治のリーダーシップ不足から混迷が加わり、一段と悪くなつたような感のある最近であります。このような時代に於いてこそ、同じ学園で学んだ者同志が相互に、また学園、校友会との連携を心掛け、協力し助け合い、堅い結束を保つ必要があつたかと思ひます。

幸い、我が学園の卒業生は約十七万人を数え、その内住所判明者は約七万四千人に達し、全国あらゆる地域で、また幅広い職種の企業、団体等で活躍しております。情報の交流に心掛け、色々な面で連携し協力し合うことができれば、大きな成果が出るものと考えられます。校友会がその橋渡しの一助にでもなればと思ひますので、皆様お心掛け下さい。

また会員と学園、校友会間の情報交換の場としてインターネット活用も出来るようになり、ホームページの内容も一新され、校友会・同窓会、地方・県支部・電機会総会等の案内や、求人、求職について卒業生または在學生と企業との相互支援が出来るようになりましたので、活用下さい。

現在学園は二十一世紀に向けて学部学科の増設改編、教育統合化等を進めておられます。校友会としても学園とよく連携をとり、県支部の設立及び活性化を初め、多くの事業を積極的に進め、皆さんに喜んでもらえる校友会となるよう努めますので、千葉県支部の皆様、校友会に対する要望等ありましたならば遠慮なくお申し出下さい。

会員の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻下さいますようお願い申し上げますと共に、千葉県支部の益々の発展を祈念申し上げます。

■人は城 人は石垣

武田神社崇敬会 評議員 特別会員
支部長補佐 嶋田 建弘

武田信玄公は清和源氏新羅三郎義光公の後裔で、大永元年（一五二一）積翠寺要害城で、甲斐源氏嫡流・武田家第十八世、守護・武田信虎の長男として誕生。

母は武田家一族の大井信達之娘、幼名太郎と名づけられた。天文五年（一五三六）三月、十六才で元服、従五位下大膳大夫に任じられ、將軍足利義晴から「晴」の一字を賜り武田大膳大夫源朝臣信濃守晴信と名乗りました。

天文十年（一五四一）父信虎を駿河國に隠居させ、二十一才で甲斐の国主となり、以後三十年余、領国の経済発展と領民の生活の安定の為に尽力しました。信玄公は甲斐の躑躅が崎を拠点として勢力を拡大し、信濃の諏訪、小笠原、村上氏、駿河の今川氏、相模の北条氏、越後の上杉氏と覇権を争い、その最大領域は信濃の

大半、駿河一円、上野、遠江、三河の各郡、美濃、飛騨、越中の一部九力國に及びました。

数ある合戦の中で、十二年余の上杉謙信との五度にわたる川中島の合戦は有名で殊に、四度目の永禄七年（一五六四）山本勘助が編み出した「啄木鳥の戦法」では上杉謙信に裏をかかれ大激戦となり結果的に、川中島は武田方の領地となつて決着がつかしました。（この間、三十九才の時に晴信は剃髪して信玄と号しています）信玄公は合戦を軍団の単なる衝突の場所としてでなく、外交戦略を駆使する場面として利用し、相手の近隣武將に対し、直接の合戦以前に有利な立場を確保して無駄な戦を避け領民の合戦での犠牲を少なくするよう心掛けました。

信玄公が、現代でも慕われているのは、戦では「孫子の兵法」から甲州流の基を築き、民政に於いても多くの功績を残し、領国経営の拠点として城下町甲府の整備、寄親、寄子制による家臣団の編成による国内統治、神仏にたいする信仰心、甲州法度の次第（法律の制定）、大小切の法による徴租（租税制度）、信玄堤の構築などの治水事業、黒川金山等の金山開発と甲州金の鑄造（銀行の基、産業の始まり）、棒道の建設（道路工事）、のろしによる合図（情報の伝達）（伝馬制度の整備等各方面にわたる幅広い活躍により富国強兵を図り、その偉業は徳川家康が模範として引き継ぎ、今の世にも活かされています）。「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」は信玄公の信条を讃える歌として今も受け継がれ、あまりにも有名な歌です。

株式会社関電工千葉支店

副長 高橋 洋二
(昭和48年卒)

高率電設株式会社

取締役 小川 力
(昭和54年卒)

高率電設株式会社

代表取締役 小川 重二
(昭和28年卒)

東光電気工事株式会社

特別顧問 竹内 保
(昭和22年卒)

東洋熱工業株式会社

東京本店本店長補佐 松本 宏
(昭和33年卒)

新星商事株式会社

顧問 花井 卓郎
(昭和35年卒)

東光電気工事株式会社

東関東支社長 松本 武
(昭和39年卒)

城南電設企業株式会社

代表取締役 並木 鷹男
(昭和44年卒)

城南電設企業株式会社

常務取締役 徳久 昌之
(昭和44年卒)

■日本の技術

民主党 竹内 圭司

二十世紀は技術革新の時代であった。この百年技術の進歩によって、地球は様変わりしました。技術の進化によっての日常生活品が、人間生活を豊かにし、通信や輸送の発展に伴い世界の人々との交流を容易にできました。最近十二億人と言われる中国、そしてアジアの経済発展も目覚ましいものがあります。

しかし、ここで考えねばならないのは、今後の日本の果たす役割です。日本においてかつて大問題となった公害や、現在引き続き問題となっている環境破壊や、ゴミ問題、交通事故の増加も二十一世紀初頭には中国や、アジアそして全世界においての深刻な問題になりうるのです。人口が多い中国やインドにおいては、日本が経験した以上の早さと被害が予想されます。我々地球人が直面する困難な事態にいかに対処するのか？ここに二十一世紀の「日本の技術」の役割があるように思えます。

資源を持たない国として、経済発展に伴い抱え込んだ負の財産をもつ国として、今後技術を武器に、その経験を發揮できるのではないのでしょうか。例えば、自動車の排気ガスに伴う大気汚染を、排気ガスが少なくて済むエンジンの開発に取り組み、こと。既に各自動車メーカーが日夜取り組んでいるこの研究開発も、かつてビデオのVHS陣営が、SONYのBETA陣営に勝利したように。連帯によって日本発標準技術を、あらゆる技術の分野で、どの国どの企業にも負けないSPEEDで、環境基盤をつくること必

要ではないかと考えます。「独自の技術を、一社でなく多くの共同開発・作業によって標準技術にしていく。」「ここに日本の技術の明日を占う鍵が隠されているように感じます。同時に社会の制度も変え、失敗したものがキャリアを築いていける制度に作り直さねばなりません。

アメリカでは、ハイテク関連のベンチャー企業上社のなかで九社までが失敗する。失敗したものも、再度経験を生かし復帰する社会制度がある。挑戦するものを、支援する社会制度が必要なのです。教育の中では大きな技術飛躍が生まれ、創造的思考を促すような制度にしていかななくてはならないと思います。画期的なアイデア、新技術の発見をしたものには最高の点を与えられるべきです。学費も、生き生きと可能性を最大限に發揮でき、その成果を受けられる教育が求められます。そして最も必要なのは、日本が技術を生かして世界にどのように貢献するか、したいのかを明確に「心」に持つことです。この点が、二十一世紀の日本経済を成功に収めることができるのかどうかのポイントだと確信します。

技術は人なりの東京電機大学の言葉どおり、私は卒業生の一人として日本の技術に貢献したいと思う今日です。

■千葉県支部総会

常任幹事 高橋 洋二

第三十回通常総会が平成十二年七月八日(土)東京電機大学千葉ニュータウンキャンパスをお借りして開催されました。平成十一年度の事業・決算報告、監査報告が承認され、十二年度の事業計画及び予算案が承認された。つづいて役員の変更の提案があり、支部長を二期務めた関泰雄氏(相談役に就任)に変わり、小川重二氏を新支部長に選出、嶋田建弘氏を支部長補佐に、花井卓郎氏を会計係に選任された。

総会終了後「インターネット技術の動向と将来」をテーマに記念講演会が行われた。講師は東京電機大学工学部情報通信工学科、脇英世教授を招いて「IT産業における「ネットバブル」の到来と崩壊」などの講演会に引き続き開かれた懇親会が学食で行われ、小川新支部長は「二十一

世紀に向けて「IT革命」が様々なかたちで世の中を変えていく、このような時にこそ、当校友会と学校と力を合せてチャンスを生かそうと挨拶、その後盛大な立食パーティーで懇親を深めた。

編集後記

松本 武

「千葉県支部だより」は皆様のおかげで、第四号を発行することができました。今年には校友会の理事長が加藤勝一氏から横田等氏に、当支部長が関泰雄氏から小川重二氏へ変わりました。千葉県在住の学園卒業生八千余名の内「工学情報」が送られている三千七百余名の会員にこの支部だよりを送るようになりました。支部だよりを今後会員相互の情報に役立てて頂くため、情報・意見を事務局へお寄せ下さい。

尚、校友会小田部宏事務局長のお力添えで印刷代等は校友会で負担して頂き、個人広告の掲載料を送料の一部と致しました。編集委員は田中豊明、徳久昌之、高橋洋二、松本武です。

社団法人東京電機大学校友会 千葉県支部役員 (平成12年度)

役名	氏名	電話
支部長	小川 重二	043-242-1539
支部長補佐	嶋田 建弘	090-9142-9048
副支部長	松本 武	043-224-7921
副支部長	徳久 昌之	043-295-1151
副支部長	田中 豊明	043-224-6251
常任幹事	高橋 洋二	043-241-7331
常任幹事	松本 宏	03-5250-4142
常任幹事(会計)	花井 卓郎	0471-66-0206
幹事	山本 忠雄	047-337-2380
幹事	黒沢 昌弘	0476-34-5670
幹事	重崎 始	045-651-1631
幹事	竹内 圭司	0436-60-8050
幹事	坂本 金治郎	043-291-2040
幹事	猪狩 俊明	0436-22-4656
幹事	篠崎 浩一	043-254-8151
幹事	高久 広毅	0422-37-6488
幹事	畠山 忠之	03-3667-7481
幹事	市川 勝利	043-485-5111
幹事	鈴木 繁雄	03-3270-7851
幹事	岡野 敦	043-227-9131
幹事	桜井 知明	0470-82-0267
幹事	大塚 武昭	043-271-2735
幹事	葛西 信司	047-475-7393
幹事	吉田 宗治	0470-87-5321
監事	喜多村賢一郎	043-224-5161
監事	緒形久四郎	0474-91-6671
相談役	山本 登	0473-78-4101
相談役	竹内 保	03-3292-2111
相談役	杉沢 順一	0473-78-8951
相談役	小林 健治	0473-65-4838
相談役	増田 隆一	04796-2-0204
相談役	関 泰雄	043-255-1911